

戦争犯罪：我々は「かなりの数の」ロシア市民を殺した

ウクライナが、プーチンとその侵略の支持者殺しを認める

<https://www.infowars.com/posts/war-crimes-ukraine-admits-murdering-quite-a-few-russian-civilians-who-back-putin-and-his-invasion/>

Infowars/ Zero Hedge

May 21, 2023

⇒ウクライナの市民殺しは、単に、ワシントンが主張して見せる、曖昧な「国際的基準」に違反するだけではない。それらは明らかな戦争犯罪である。

⇒ウクライナは、テロの国家スポンサーとして働いている——戦争が始まって以来、米軍支援の 370 億円を受け取った者として。

あるウクライナ政府高官が認めた——彼の国家が、プーチンや、彼のドンバス地域領有の主張を支持した、「かなりの数の」ロシア市民を、暗殺したのは事実だ。ロンドンの The Times とのインタビューで、ウクライナ軍事情報局ヘッドの Kyrylo Budanov 少将は、「ただ攻撃はこれくらいでは終わらない」と念を押した。

「我々はすでに、かなりの数の人々を狙って成功している」と、ブダノフは言った。彼は犠牲者たちの名前はあげなかったが、「そこには、メディアの取材のおかげで、誰でも知っている、いくつかの著名人のケースがある」と言った。

2022 年 2 月のウクライナ侵攻以来、この侵攻を支持する数名の著名なロシア人——および多くの無実の一般人——が、この運動の中で殺されるか負傷している。

このような攻撃の最も顕著な例の一つは、昨年 8 月、乗用車に仕掛けた爆弾によって、ジャーナリストの Darya Dugina が殺されたが、これはおそらく彼女の父、政治的哲学者 Aleksandr Dugin を殺そうとしたものだった。

彼女の父と同じく、ダーリアも、プーチンとその侵攻の支持を公言していた。彼女もその父も、戦争が起こって以来、アメリカによる制裁を受けていた。彼女の知名度を考えると、ウクライナは悪辣にも、一発で親子 2 人の処罰を狙って、彼女を殺した可能性が高い。

もっと新しいケースは、Zakhar Prieleptin が 3 月 6 日の乗用車爆弾で負傷した事件であり、またロシアの軍事ブロガー Vlanden Tatarsky が、4 月に公衆の前に立っていたときも、

ある女性が中に爆弾の隠された彫像を彼に進呈し、それが起こった。他に 15 人の人々も負傷した。

視野を広げると、このテロ運動は、仮説的に並行して起こっており、イラクの情報部が、2003 年に、Bill Kristol、Jefferey Goldberg、Ann Coulter、それに Max Boot のような、イラク人への激励リーダーたちを、爆殺した事件があった。

更に言えば、もしテロリズムの定義を「政治的目標を達成するための、市民に対する暴力の意図的な使用」として受け入れるなら、ブダノフは、ウクライナに、テロの国家スポンサーのような役割をもたせている。

ブダノフは単に、弁解しないテロリストであるだけでなく、それを自慢しているのである。「こうした事件はこれまで起こっただけでなく、これからも起こるだろう」と、彼はタイムズ紙に話した。「このような者たちは、それに値する懲罰を受けるだろう。そして、受けるべき処罰だけが「その清算」liquidation であり、私はそれを実現させるだろう。」

ある別のウクライナの YouTube チャンネルのインタビューで、ブダノフは、どんな国家でも、間違ったことを言ったり書いたりする市民を、彼が殺したと証言して結構だ、と暗に匂わせた：——「はっきりしたクズ野郎 (outright scum) は、最終的に、どこの世界のどの国でも罰せられるだろう。唯一、消去法 (elimination) だけが、そのような行動に対する、十分にふさわしい (well-deserved) 処罰でありうる。」

彼の鉄面皮の告白に加えて——これは西側のメディアでは、ほとんど全員に無視されたが——ブダノフは、このユーチューブの司会者に対して、「ロシアは多層的防衛システムを構築した。それでもこれは、(わが軍が) 確実な攻撃作戦を行えば、ロシア軍は期待できるようなものではない」と言った。

ブダノフは、野心的かつ、おそらく空想的に、ロシア軍が、ウクライナの土地から追い払われる有様を描きながら、彼の国家はロシアの内部に、60 マイルの脱軍事化ゾーンを造るべきだと言った。「これが我々の目標であるべきだ。もし彼らが 2 年経っても攻撃することなく、報復もしないと決定するなら、これはもう問題でなくなるだろう。」

[訳者 Greatchain 注]

この記事は、冒頭の写真のゼレンスキーでなく、ブダノフというウクライナの高位の軍人で軍事情報のヘッドが、主人公である。この人は狂人ではないが、狂人のような、確

信犯的な人であり、ゼレンスキーを初めウクライナ軍全体の、精神状態を代表しているように思われ、貴重な文献である。まず、ロシアとロシア人を純粹に「悪」ときめつけ、そういう者たちを支持しただけでも、殺すべきであり、殺すに値すると考えている。そこに理由はない。問答無用である。これは我々にとって非常に参考になる。ああ、やはりそうだったのかと思わせる。

訳者の私は、この人の使う言葉に注意しなければならず、慎重に訳したつもりである。何箇所か英語の原語をカッコで示した。彼の言うのは、彼の判断する悪人は、死をもって償うべきで、それ以外に救う方法はないということらしい。我々はアメリカのCIAについて、サイコパスについて、また「アメリカ例外主義」について、その悪魔性を勉強した。それぞれが、ブダノフ・ウクライナ軍少将の信念とつながっているのではないか？

しかし、何よりもこれは、先日終わったばかりのG7会議の醸し出した雰囲気、似ていないだろうか？ 共通する拠り所はただ一つ、ロシアとロシア支持者だけは、理由抜きで許せない、ということであろう。しかし彼らは共通して、不安げで自信なささそうでもあった。彼らはブダノフを知らないかもしれない。しかし、自分を滅ぼすかもしれないウクライナの狂気を、G7 代表者たちは、ひそかに感じ始めたのではないだろうか？